

## (II-49) 釣り人から見た市街地を流れる河川

東洋大学工学部 学生員 酒井弘之  
東洋大学工学部 学生員 山本直樹  
東洋大学工学部 正員 福井吉孝

### 1.はじめに

入間川・小畔川・新河岸川に対するアンケート調査及び水質調査を行い、結果について検討した。

入間川は名栗村から川越市を流れ、荒川と合流する河川であり、小畔川は、日高市、川越市を流れ、入間川と合流する河川であり、新河岸川は、入間川右岸の段丘の水流を集め、川越市から東京都北区を流れ、隅田川と合流する河川である。

### 2.検討内容

#### 1)・アンケート調査

入間川・小畔川・新河岸川の釣り人にアンケート調査を行い、釣り人が市街地を流れる河川をどのように考えているのかを検討した。

#### 2)・水質調査

入間川・小畔川・新河岸川の流量、DO、COD、濁度の4項目を測定し、水質と釣りの関係を検討した。

### 3.結果と整理

#### 1)・アンケート調査

市街地の河川に対する要求の内の一つである釣りを通して川のあり方を考えてみることにし、入間川・小畔川・新河岸川で釣りを楽しむ人々を対象にアンケート調査を実施した。調査人数は、川ごとで平均30人、計94人である。

図-1では、若い人がグループで釣りに来るのに対し、高年齢になるとつれて、一人で釣りに来ていることが分かる。

図-2では、若い人の多くが月に5回程度の釣り回数なのに対し、高年齢になるとつれて毎日のように釣りに来ていることが分かる。高年齢になると釣り場が釣りをする場であると共に顔見知りになっている釣り人たちの情報交換などの社交の場として、毎日のように利用されていることが分かる。これは、川の機能としては、形を変えた“親水”であると云える。

図-3では、釣り人の年齢を問わずに、自宅から釣り場までの所要時間が比較的短く、アクセス容易な近い釣り場を選んでいることが分かる。

図-1 釣りに来るときの人数

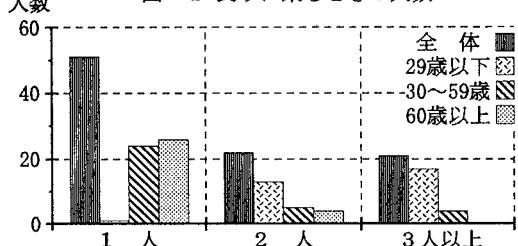


図-2 月に釣りに来る回数

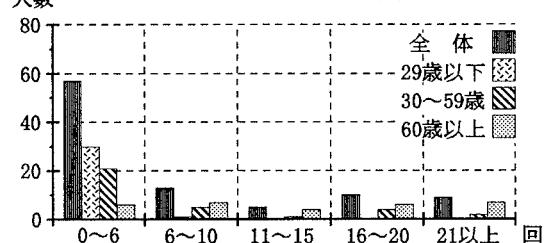
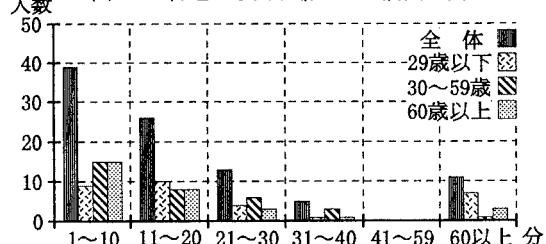


図-3 自宅から釣り場までの所要時間



## 2) 水質調査

水質調査結果を表-1に、月別のグラフを図4~7に示した。

図4から小畔川は流量が季節の影響を受けない典型的な市街地の河川であると言え、濁度から新河岸川は濁っていて景観にも悪い影響及ぼしていると思われる。汚れの指標となるCODは小畔川と新河岸川が高い値となっている。以上の事から小畔川と新河岸川は水質が良いとは言えない。それでも釣り人が多いと言うことは、市街地の河川での釣りは水質や景観にあまり左右されないことがわかる。

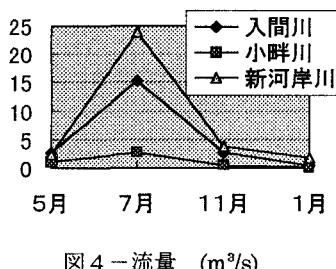


図4－流量 (m³/s)

写真-1 市街地の河川の釣り場風景



表-1 水質調査結果の平均値

	入間川	小畔川	新河岸川
流量	5.3m³/s	1.14m³/s	7.99m³/s
D O	10.15mg/l	9.08mg/l	7.03mg/l
C O D	4.46mg/l	6.99mg/l	6.84mg/l
濁度	7.18mg/l	12.13mg/l	21.5mg/l

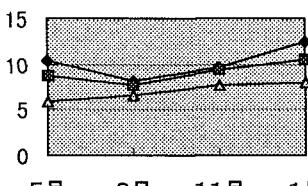


図5－D O (mg/l)

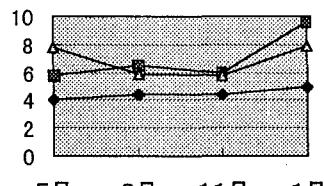


図6－C O D (mg/l)

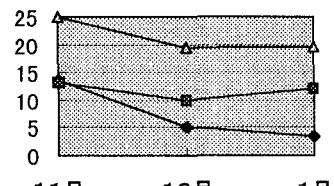


図7－濁度 (mg/l)

## 4、まとめ

釣りは本来、食生活の手段の1つであったが、現在の市街地の河川では釣りと食生活は完全に切り離された。その原因には護岸整備等により環境が破壊され、魚のすみかが失われてきたことがあげられる。また、生活排水等による水質の悪化が釣った魚を食べることを不可能にしている。しかし、現在の日本の釣り人口は約3724万人とも言われ、河川などの淡水域では約1343万にも上っている。その理由はアウトドアブームによるルアーやフライフィッシングが若者に広がったからである。そのように自然と川と釣り人との関係は密度の濃いものである。そこで市街地の河川のあり方を考えるために“釣り人”に着目し、アンケート調査及び水質調査を行った。その結果、①市街地の河川での釣りは、水質や景観で釣り場を選んでのではなく、アクセスの容易さが重要視されている。②若者がレジャーとして釣りを楽しんでいるのに対し、年輩の釣り人は単にレジャーとしてではなく、釣り仲間との社交の場として楽しんでいる。そのため年輩の人は釣り場に一人で頻繁に足を運んでいるということが分かった。

入間川は水質も良く、釣り場としての機能を十分に果たしている。小畔川、新河岸川は水質は良くないが釣り場としての機能は果たしていると考えられる。しかし河川の水質が改善され、釣った魚を食べることが可能となれば、新たな楽しみが増えるのではないだろうか。

参考文献：埼玉県環境部 公共用水域及び地下水の水質測定結果